

2010年度  
埼玉地区主題

主にある交わりを  
深めよう  
-互いに愛し合い、神を知る-

日本基督教団関東教区

# 埼玉地区通信

2010年7月30日  
発行人 日本基督教団 関東教区  
埼玉地区委員会  
委員長 土橋 誠  
飯能市柳町 23-8  
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/  
印刷所 (株)シャローム印刷

## 埼玉地区総会報告

豊川 昭夫

三月二十二日(月)、埼玉新生教会を会場として二〇一〇年度の埼玉地区総会が開催されました



開会礼拝は、今年九十四歳になつた中村忠明牧師(埼玉新生)が「十字架の言葉」と題した力強い説教をされました。なお中村忠明牧師は、昨年六月の教団創立記念の教職表彰を受けました(六十三年間)。出席者は開会時点で正議員一三五名のうち一〇七名。議長は中村眞牧師(埼玉新生・地区委員長代行)が務めました。

### (一) 地区委員長選挙

深見祥弘地区委員長の辞任に伴い、残り任期一年の地区委員長選挙が行われました。本選挙の結果、土橋誠牧師が過半数を獲得し地区委員長に選出されました。

### (二) 地区委員選挙(半数改選)

教師 都築英夫(秩父・新)、東野尚志(聖学院・新)、山田称子(浦和別所・新)、信徒 長尾愛子(小川・再)、結城恭子(大宮・新)

任期継続者は教師・栗原清(武蔵豊岡)、中村眞(埼玉新生)、山ノ下恭

二(東大宮)、信徒・三井田忠昭(岩槻)、佐久間文雄(志木)  
なお、教師・田中かおる(安行)、竹内紹一郎(深谷西島)、信徒・石川幸男(大宮)は二期四年を満了しました。

### (三) 二〇一〇年度の宣教活動計画

#### 【主題について】

主題 「主にある交わりを深めよう  
-互いに愛し合い、神を知る-  
聖句 「愛する者たち、互いに愛し合  
いましょう。愛は神から出る  
もので、愛する者は皆、神から  
生まれ神を知っているからで  
す」

### (四) 二〇一〇年度地区会計

地区分団金を総額で約十パーセン  
ト減額。  
出来るだけ特別会計を少なくして  
一般会計に整理統合するため、教会  
音楽委員会交付金、アーモンドの会  
計伝道活動費に移行し、インタール  
ファックス代を事務通信費に合算す  
るなど、いくつかの科目についての  
整理が行われました。

議案第八号の「埼玉地区規則を  
更する件」は審議未了の為廃案とな  
りました。その他の議案、地区会計監  
査選任の件、地区総会議事録確認に  
関する件、次回地区総会会場及び日

程の件は、地区委員会に付託されま  
した。

今年の埼玉地区総会は、深見祥弘  
委員長の年度途中での辞任に関し  
て、冒頭より激しい意見のやり取り  
がありました。しかし、深見前委員  
長、地区委員、またこの問題に関わ  
った方々からの丁寧な説明により、意  
見の違いはあったかもしれませ  
んが、互いの理解は深められたと思  
います。特に、この問題に関わった全  
の方が真摯に取り組んでおられたこ  
とがよく  
分かりま  
した。



埼玉地  
区規則に  
は「地区  
内諸教  
会・伝道  
所の一致  
と連帯の  
強化に務  
め、福音  
の前進に  
仕えることを目的とする」という文  
言があります。総会が人間だけの集  
まりであつたらどんな結果になるか  
と思います。しかし、この総会には神  
さまが臨んでくださり、神さまが私  
達を導いて下さるといふ信仰の故  
に、互いの違いを越えて共に歩む道  
が開けると思っています。

(越谷教会、ホームページ委員会)



私の妻は  
学生の頃、因  
数分解が得

意で数学も好きだったのに、三  
角関数が出て来たとなんにも嫌  
いになったと言っていました。  
一メートル先にある高さを角  
度で表現したものがタンジェ  
ントですが、これには限界があ  
り、真上は計算できないので  
す。

建築でも糸に錘をつけて真  
下を決め、その正反対を真上と  
することしか出来ません。

植物でもまず種は重力を察  
知して真下に根を出し、その正  
反対の方向の暗闇に向かって  
芽を伸ばしていくそうです。

真上を神の位置とする時、私  
たちは真下の罪の認識がない  
と、神の位置すら分らなくなる  
のかなと思ったりします。

「イエスは神と私たちの真ん  
中に立ち、とりなしをしてくだ  
さる」と言う時、私は最初、神  
と私たちの丁度中点のあたり  
にイエスが居るイメージを持  
っていました。ところがイエ  
スの立つ位置は、私のごく近く  
に立っていて、とりなして  
下さるといふことを知り、数学  
的な思考では聖書の中身はイ  
メージしづらいものだと思  
っています。

(三井田)

地区委員長に選任されて



土橋 誠

三月の地区総会で思いがけなく地区委員長に選任され、戸惑うばかりです。私は自分がその任にふさわしいとは考えたことはありませんでした。

何か小さな役割があれば、その役割を担う自分の姿は思い描くことが出来すけれど、地区委員長としてその任を担う姿は思い描くことが出来ません。

しかし、そうした私が選任されたということは、そこに何か自分では思い描くことの出来ない主の御心があるのかもしれない。それが何であるのかは分かりませんが、与えられたその任を、その任についている間、地区委員の皆さま、地区内の教会・伝道所のすべての皆さまに助けられ、心を尽くして行うことが出来ますようにと主に祈るばかりです。

エフエソ書二章十四節は「実に、キリストはわたしたちの平和であります。」と語りかけています。

教会・伝道所も地区も肉なる人の集まりです。意見の違い

や立場の違いから、時として、争い、論議することがあります。それでもなお私たちは、主にあって一つなる体であるというところに、私は和解や一致への希望を見ます。

そのことを現実化するためどうして行つたらよいのか、二〇一〇年度の埼玉地区の歩みがそのことを覚えつつなされることを願つてやみません。

当年度の埼玉地区宣教活動計画が地区総会において承認されました。その計画の主題は「主にある交わりを深めよう。互いに愛し合い、神を知る」とあります。そして聖句はヨハネの手紙I 四章七節が上げられています。この主題と聖句を心において今年度の地区活動が進められて行くわけですが、地区委員会では特に四つのことを取り上げています。

I、今年度の新年合同礼拝は三区に分かれて行うこと。  
II、各委員会、各部の働きを推し進め、支援すること。  
III、各個教会・伝道所と共に悩みや喜びを分かち合うこと。  
IV、関東教区総会の設営当番年度にあたるので、設営に協力すること。

この中で、IIIの(三)に「洗礼を受けた者が聖餐に与ると

いう、洗礼から聖餐への順序で一致できるように、各個教会の抱える問題を丁寧にかがたり、考え合ったりする場を設けたい」ということが、今年度において新たに加わりました。

現在、聖餐についての考え方が、様々な観点から多くの方々によって語られています。埼玉地区もその影響下にあり、このことについて考え合うことのできる場を設けることが求められていると地区委員会は判断し、地区総会において上記のように提案し、承認を受けました。

この承認をもとに具体的計画をつくり、地区内の教会、伝道所の皆さんがこのことについて語り合える場を用意したいと考えています。

各部、各自主活動委員会の計画も地区総会で承認されました。そして、それぞれの歩みが既に始まっています。地区内の教会・伝道所の皆さまの積極的な活動参加と祈りによる支えがなければ進められません。よろしくお願い致します。

新地区委員紹介

主と教会に仕えるために

秩父教会 都築 英夫



秩父教会に赴任してこの春で六年目を迎えます。この

間、地区に関しては、教師委員、修養会委員などの働きに加えられることができました。

地区の働きに出るのは「外部のこと」ではなく、教会の働きそのものである。これは、秩父

に来てからずっと心に思い、また秩父教会の方々にも申し上げた事です。秩父から出かけることは、多少の負担はありますが、主の体である教会を立てるために、秩父教会を代表して奉仕を続けてこられたことに、本当に感謝をしています。

今回地区委員に選出された事を主の召しと受け止め、埼玉全体の伝道のため共に歩みたいと願っています。

「山々はエルサレムを囲み主はご自分の民を囲んでいくのださる。今も、そしてとこしえに。(詩編一二五・一二)」

主の恵みに囲まれていることを信じて！

地区委員に選ばれて

聖学院教会 東野 尚志



昨年の四月に神奈川教区から転任し、初めて参加した

地区総会において、地区委員の一人として選出されました。この一年は新しく赴任した教会のことで精一杯で、地区のことで思いが及びませんでした。が、早く地区や教区の様子にも慣れて、地域の教会の交わりのためにしっかりと奉仕するようになり、というお召しと受けとめました。

一県で一教区、かつては年に三回、日曜日の午後には教区総会を開くこともあった神奈川教区から来た者にとって、関東教区から来た者にとつて、関東教区は驚きですが、それぞれの地域性に応じた教会形成、地区形成のために、よく学びつつ仕えて行きたいと思えます。

教区総会設営担当で汗を流し、前任者や他の地区委員の方たちとの距離がぐっと近くなったように思います。地区では補助会計と修養会委員の務めを担うことになりました。よろしく願います。



新地区委員として

浦和別所教会 山田 祢子



埼玉地区に赴任して、二度目の地区委員を担わせて頂

きます。埼玉で生まれ、埼玉で育ち、埼玉の教会に遣わされて現在になります。その間、四年前に一期二年間地区委員となり、修養会委員と桶川伝道所協力委員として働きました。

その後、桶川伝道所の自立を目指しての歩みを共に担い四年が経ち、五年計画の最後の年となっております。その年に地区委員となり桶川伝道所の自立への一歩を踏み出すために、不十分ながら共に歩ませて頂くことになりました。これまでも支える会のバックアップと埼玉地区内教会・伝道所の祈りによって支えられています。この祈りが力として現れるためにも、具体的な働きの担い手を願っています。

一つの教会が生み出され、成長し実を結んで行くことは、簡単ではありませんが、主が働かれるならば実現は可能です。祈りさまのみ手のわざを見させて頂きたいです。

小川教会 長尾 愛子



埼玉地区委員として二期目となりました。

これまで奏楽者として、教会学校の奉仕者としての歩みを長く続けてきました。その中で必要に迫られて地区や教区の学びに参加してきました。そこで、知識や知恵を頂き、あるいは訓練され、育てられてきたと思っています。

そして、なによりの恵みは、同じ奉仕をしている地区内の兄弟姉妹との交わりによって大いに励ましを受けてきたこととです。

社会問題に対するキリスト者としての視点も、教会の連帯についても、地区活動の中で培われてきた私の大事な宝物です。それは一つの教会の中に閉じこもってはいけません。なかなか得られないものだと思います。

埼玉地区の教会がお互いのありかたを尊重し、支えあい、協力し合って、宣教の課題に取り組むことができるように祈りながら務めさせていたいただきたいと思えます。

大宮教会 結城 恭子



地区の働きを知ったのは三〇年程前の中学生キャンプ

で、他教区から来た私にとっでは新鮮な体験でした。その後、新年合同礼拝、教会全体修養会等に出席し、埼玉地区が各教会の連帯を大切に行っていることを少しずつ知りました。

今回、図らずも地区委員に選ばれ、初めて婦人部担当として総会へ陪席、そして教区総会の設営の手伝いと、地区・教区を以前より身近に感じるようになりました。

自殺者が年間三万人を越え、失業、心を病む若者、残酷な事件：と問題の多い現代、教会に託された使命は大きく幅広くなっています。各個教会の伝道・牧会の業と共に、地域が一つとなって、神から与えられた使命を担っていくのが地区の働きだと思えます。「恐れるな。語り続けよ。この町には、わたしの民が大勢いる。」(使徒十八・九〜一〇)地区の働きに、微力ではありますが務めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

新任教師紹介

埼玉大通り教会 東海林 昭雄



東京信愛教会で一年、小松川教会で十四年

御用し、埼玉大通り教会より招聘を頂き赴任して参りました。

信仰に至ったのは、二十歳の時、K G K (キリスト者学生会) のバイブルキャンプを通してでした。

参加していたクリスチャン学生の純粋な生き様に驚き、自分もそのようになりたいと強く思われ、単純に信じる事が出来ました。その後、サラリーマンの後、独立し会社経営など、色々経験いたしました。あなたが適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるのではない働きの手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。」(テモテ二 二章十五節)との御言による明確な召命を受け、三十歳の時神学校に入学し、今日主の御用をさせて頂いていることを感謝しております。「この町にはわたしの民が大勢いるからだ」(使徒十八章九節)との御言に励まされつつ、教会員と共に思いっきり伝道したいと願っております。

浦和別所教会 浅田 美由紀



四月より浦和別所教会でご奉仕させていただきます。

私は東京聖書学校吉川教会の出身ですが、神学校卒業後は東京教区の赤羽教会で三年間ご奉仕させていただきました。

このたび、埼玉地区の教会に赴任いたしました。故郷に戻ったような思いがしております。

現在、私はK G K (キリスト者学生会) の主事をしております。直接献身の召しを受けたときから学生伝道へのビジョンが与えられていたのですが、四月より、大学生の時から携わっていたK G Kへの道が開かれ、浦和別所教会が遣わしてくださることとなりました。全てのことを共に働かせて益とされる神さまの御導きに心から感謝いたします。

平日は学校訪問などK G Kの働きを通して大学生や専門学校生たちと聖書を読んだり、

祈り会を持つたりしています。まだまだ未熟で至らないところの多い者ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

教会設立

おめでとうございます

シャロンのばら教会  
鈴木 証一

六月十三日が、シャロンのばら教会設立式でした。当日は「花の日・子どもの日」と重なり、教会行事があつて来ていただけなかつた方がおられたことは残念でしたが、正田國磨呂教区総会議長の司式のもと、総勢一二四名が集つて、式は執り行われました。

伝道所の開設は一九九二年で、開設時よりたくさんの方が与えられていたこともあり、教会設立のご案内時には「やっどですね」とのお言葉を、何人もの方からいただきました。「やっど」との思ひは、私たちの中にもあります。しかし振り返つてみれば、伝道所から教会までの十八年間は、通るようにと定められた時であつたように思ひます。

武里せんげん台伝道会と幸



手高野台伝道会という二つの離れた礼拝場所（自動車で四十分位の移動）で、日曜日の同時刻八時三十分から、子どもと大人の合同礼拝を行うことを、ずっと大切にしてきました。そ

のために、たくさんの方、教会・伝道所の方々に守られ支えていただき、皆で心から感謝しています。その一つひとつが、シャロンのばらのなくてはならない糧となり、その上にシャロンのばら教会がたてられたことを、心に刻んでいきます。また、これまでのお支えを感謝するだけではなく、これからは他者を支えることができるようにと、祈りを合わせています。

教会設立の準備を進めていくときに、「喜びの拠点となる」ことを目標の一つに与えられました。そのためには、まず自分たち自身が絶えずイエスさまによって喜んでいられることができなくてはなりません。教会設立のためにいただいたたくさんの方々のメッセージと、式にご出席くださったたくさんの方々によつて、私たちは目標の第一歩を歩み出すことができました。本当にありがとうございます。

埼玉地区婦人部総会報告

志木教会 櫻井 貞子

去る四月十九日(月) 大宮教会を会場に総会が行われました。当日は四十一教会・伝道所

九十四名の姉妹方と共に田中かおる牧師に導かれて開会礼拝を守り、その後二〇一〇年度総会となりました。皆様のご協力により、議案の全てが滞りなく承認されて新年度の活動準備が整いました。

二〇〇九年四月より委員が交代し、右も左もわからない中、陪席の森淑子牧師、前委員長川田光江姉に支えられながら、ようやく任期一年を終えて、新たな思いで二年目をスタートいたしました。

顧みますと、各区の教会より押し出された形で委員になり困惑の極みでしたが、神さまから託された賜物を持ち寄つてご奉仕出来たことで、大きな喜びに変えられました。埼玉地区内の各教会の婦人方が、互いに励ましあいながら宣教の業に勤しむお姿に感動し、このような力を授けて下さる神さまに心から感謝して総会を終了しました。(婦人部委員長)

教会音楽講習会報告

大宮教会 桐生 純子

埼玉地区教会音楽委員会で、今年度の学びのテーマを教会に集う方々にとって身近で、かつ興味深い「讃美歌の歴史」

としました。讃美歌の詩と曲は、長い歴史の中でそれぞれの時代や国(地方)によって特徴のあるスタイルで受け継がれてきました。現代に歌い継がれている讃美歌を中心に、時代背景や作者について、一緒に学びませんか、との声かけで、去る五月二十九日(土)大宮教会にて、今年度第一回目の講習会が行われました。十三教会・三十一名の出席者でした。

讃美歌の歴史を大きく二つに分け、今回は前半の部分を成田恵子先生をお迎えして、学びました。

讃美歌とは何か、共に讃美歌を歌う意味、を導入として、旧約聖書の讃美歌、新約聖書の讃美歌、東方教会の讃美歌、古代から中世のラテン語讃美歌、そして近世のプロテスタント讃美歌までを、膨大な情報の中から、より大切な所を特に抽出し、整理して頂いた事で、私達は大変わかり易く学ぶことができました。

中でもグレゴリア聖歌、コラル、ジュネーヴ詩編歌は後世に大きな影響を与えました。ルターは、ドイツ語で賛美できるようにコラルを作り、音楽によって教育を！と、字の読

めない人も、聖書をわかり易く  
覚えられるようにと、歌にした  
そうです。

一五六二年には、ジャン・カ  
ルヴァンの要請の下、ジュネー  
ヴ詩編歌全百五十曲が作られ  
ました。

旧約の時代から歌い継がれ  
てきた讚美歌を、時空を超え  
て、参加者と共に新たな感動を  
持つてたくさん賛美できまし  
た事、感謝いたします。

次回、秋に行われます二回目  
(後半)も乞うご期待を!

### 第九回I.T祭

西川口教会 金田 佐久子

二〇一〇年五月十五日(土)  
午後、埼玉新生教会を会場に、  
当ホームページ委員会主催の  
第九回I.T祭を開催しまし  
た。今回は、「メディア伝道の  
可能性を探る」というテーマ  
のもと、外部から講師を招いて  
講演会を持ちました。

講師は松谷信司さんで、キリ  
スト新聞社より刊行されてい  
る雑誌「Ministry」の編集長で  
す。

初めに、今回与えられたテー  
マより「メディア伝道」につい  
て、カール・ハラスキの言葉を  
紹介されました。一部紹介いた



します。「…キリスト教ジャー  
ナリズムが取るべき筋道は、福  
音的意味における宣教の道、つ  
まり聖書から問題へという道  
ではなくて、問題から聖書へと  
いう道である。従って、キリス  
ト教ジャーナリズムは、常に読  
者の身近な問題を取り上げ、彼  
が現在立っていてそれが唯一  
であり、また正しいと考えてい  
る場所よりもまだ他の実存が  
ありうるのだということを、彼  
に知らしめるのである」  
出発点が、問題から聖書へと  
いうことも新鮮に感じました



し、他の実存がありうることを  
知らせる役目をキリスト教  
ジャーナリズムが負っている  
ことを興味深く聞きました。  
ついで、キリスト教界の現状  
と課題について述べられ、イン  
ターネットを積極的に活用し  
ている取り組みなど紹介され  
ました。伝道は、何を伝えるか  
も大事であるが、それと同時に  
如何に伝えるかについても、  
もつと論じられていい、という  
ことです。

「Ministry」は、今までなかつ  
た牧師向け総合情報誌、「牧師  
の友」として発行したけれど、  
案外信徒の方も読んでいるそ  
うです。ノンクリスチャンにも  
読んでほしいし、電車でも読め  
る、というのも方針でした。

最後にメディア伝道の展望  
について、「キリスト教記者ク  
ラブ」の活動の紹介と、情報を  
発信するものとしての心得、教  
会ウェブサイトへのお願いな  
ど述べられました。

御自身が日常考えておられ  
る問題意識をわかりやすく述

べていただいた講演でした。新  
鮮な切り口でメディア伝道を  
語ってくださり、大いに刺激を  
受けました。

講演のあとは、埼玉地区で、  
ホームページ開設した武蔵  
豊岡教会と、安行教会の現状報  
告と、越谷教会のブログでの礼  
拝予告の報告などがなされま  
した。

参加者は十二教会・二十七  
人でした。人数は、今までより  
少なくて残念でしたが、初参加  
者も何人もいらしてありがた  
いことでした。感謝祈禱、記念  
撮影をして、閉会しました。  
(ホームページ委員会)

### 教会音楽講習

#### 『第二回奏楽基礎講座報告』

埼玉新生教会 中村 百合子

昨年に引き続き、第二回目の  
「奏楽基礎講座」を、六月二十  
六日(土)に東大宮教会で開く  
ことが出来ました。

昨年同様、大宮教会のオルガ  
ニストの成田恵子氏にご指導  
頂きました。出席者は十教会二  
十二名でした。

昨年一回目は、礼拝奏楽の心  
得、リードオルガンの具体的奏  
法の基礎、讚美歌の弾き方を学  
びましたが、「奏楽曲について

て」は時間切れで今年度を持  
ち越しになりました。

奏楽曲には「コラールによる  
オルガン曲」と「コラールによ  
らない曲」とがあります。

(「コラール」とは、ルターの  
宗教改革時に誕生した自国の  
言葉で賛美する「衆賛歌」で  
す。讚美歌21にも多く収められ  
ています。)

「コラールによるオルガン  
曲」では、基になっているコ  
ラールを、実際に讚美歌21から  
共に歌いました。その後リード  
オルガンで、曲や弾き方につい  
ての講習を受けました。また、  
部分的に参加者も弾く機会を  
得て、講師より実技の指導を受  
けました。少々緊張はありまし  
たが、弾き方のポイントを具体  
的に指摘して頂くと、奏楽曲が  
生き生きとした表情をもつこ  
とを実感しました。

二時間で、九曲の奏楽曲を学  
びました。豊かな時を感謝しつ  
つ、「豊かな礼拝」へと今回の  
講習が反映することを期待し  
ます。

昨年に引き続きの参加者  
も、今回はじめての方もいまし  
ましたが、今後も「奏楽基礎講座」  
を続けていきたいという声が  
上がりましたので、乞うご期待  
を！ (教会音楽委員会)

# 役員・伝道委員研修会報告

東所沢教会 安田 正人

参議院議員選挙の日、「教会形成の基本に忠実であること」(伝道・牧会の要とは何か)というテーマで内藤留幸先生(教団総幹事)を招いて、埼玉地区役員・伝道委員研修会が七月十一日(日)志木教会で、十九教会・六十三名の出席の中で行われました。

講演は、はじめに「教会形成の土台として、正典(カノン)、信条(クレド)、秩序(オルダ)の簡単な解説がなされ、以下の三つのポイントを内容として話された。

①日本基督教団とはどのような教会か——A. 神との契約共同体としての教会(教憲1条を中心に)として、四つの側面——イ. 礼拝共同体としての教会、ロ. 信仰告白共同体としての教会、ニ. 聖餐共同体としての教会——を話され、B. 全体教会と各個教会というかたちをもつ教会として、教団・教区・教会がどのような形で共に支え合い、担い合いながら生み育てているのかを具体例を用いて話され、②伝道・牧会の



要について③役員(長老)の務めについて(教規九十八条)一〇二条を中心にして)の基調講演であった。短時間の講演ではあったが、内容が濃く十分に課題を与えられたのではなからうか。講師の準備した簡潔なレジメによつて、参加者一人一人が全体の講演意図を自分なりにまとめる事が出来たのではないかと思われます。

基調講演後、五つの分団協議に入り、和やかなうちに、各役員経験している任期の課題、役員職の休み期間の諸課題、役員等々が熱心に話された。特に教憲教規の学び、役員任期の課題について、牧師と共に担う内容等各分団で共通して話し合いがなされたようです。

研修会は多くの教会の参加が望まれますが、地区全体のように交わりの時、研修の場として用いられることを深く願います。志木教会の方々と委員会の準備も充分になされていたと思います。(伝道委員会書記)

七月十二日(月)十三日(火)教師一泊研修会が別所沼会館において開催された。講師は昨年続いて藤掛 明先生(聖学院大学総合カウンセリング研究センター准教授・臨床心理士)をお迎えして、体験学習しながら「現代に生きる人々が抱える諸問題」について学んだ。

# 教師一泊研修会報告

狭山伝道所 森 淑子

講演Ⅰでは、人を理解する前提として①相互作用性と②多義性について学んだ。①の相互作用については二人一組で交互色分画法を行う。一枚の画用紙を交互に線で分割し、でき

たさまざまな形のところを交互に思う色を塗っていく。その作業を通して、「人は個々に存在すると同時に、相互作用の中で生きている」ことに気づかされるが、心や魂の問題を考えるとときには相互作用の世界がより重要となることを知った。

②の多義性についての演習として、「ハガキ・コラーージュ」を体験した。講師によって用意された、雑誌などの写真や挿絵の切り抜きを各自が選び、はがき大の紙にコラーージュして貼り、「今のわたしの気持ち」を表現する。人は生きる上で、同時にさまざまな問題や意味を抱えているが、普段はあまり深く考えないようにしている。しかし、心や魂の世界を理解するためには、動機や意味は、その人にとって重要な世界であることを教えられた。



最後に講師は「人生の後半期を理解する」ことの意味について話された。①人生の分岐点である中年期をいかに過ごすか。これも牧師にとっても教会員にとっても有意義で示唆に富んでいた。②信仰者であっても危機は訪れる。死や老化に向かうとき、それをどう受け入れ、人生の後半戦をどう生きるかは大きな課題である。そして、病氣やトラブル、大切な人との死の対応のためには、交わり、瞑想、祈りによって支えられることを学んだ。分団の語らいからもよき示唆が与えられ、有意義な研修会であった。(出席者二十一名、二十教会)



二日目の講演Ⅱでは、人生の後半戦を理解するという点に焦点が絞られた。演習は、やはり二人一組で、アンサー・コラーージュを行った。演習Ⅰの②で作った相手のハガキ・コラーージュを画用紙に貼り、あいた空間に素朴な印象や思いをアンサーとしてコラーージュし表現する。それに「作品のタイトル」をつけ、「作ろうとした意図」を書く。この作業を通して、作業をしている間は、集中して相手を理解しようとし、真剣に相

手を理解しようとし、真剣に相手

(教師委員会書記)

# 特集

## 鳩山伝道所訪問記

上尾合同教会 茨木 公子

五月三十一日・午後、鳩山伝道所を地区通信委員二人で(三井田、茨木)お訪ねした。

県道三四三号線からの小道を左折し、なだらかな坂道を爽やかな新緑の香りに包まれながら、「鳩山伝道所」に到着。



藍田修牧師と広瀬智恵子さん(故広瀬泉造牧師夫人)の笑顔に迎えられ、「鳩山伝道所」のはじめから現在までの約二十一年のお話を楽しく、また、大変懐かしくお聞きした。

### †《伝道所の成り立ち》

一九九一年四月、広瀬牧師は、ご自宅を開放して開拓伝道を開始され、一九九四年二月に教団の承認を得て、「鳩山伝道所」を設立。

「おいしい空気、きれいな町並み、緑豊かな風景は、亡き主人が憧れの開拓伝道を落ち着いてするのに最も気に入ったところであった」と鳩山伝道所十年史の智恵子夫人の記にあり、当時、ご自宅で様々な集会をされていた事が思い出された。

一九九七年 縁もゆかりも無いニュータウンの住人(山田正行氏)から「…教会の集会に使いませんか」と、自宅寄贈の話が突然舞い込み、教会員一同、驚きと喜びをもって、誠に思いがけないこの申し出を、限りない主の導きである事を感じつつ、伝道所の新会堂としてお受けした。

### †《会堂」寄贈の話》

個人住宅を会堂としての佇まいに整えるため、地区内の諸教会から机や椅子が献品されたり、山田氏の家具、ピアノ付での寄贈だったり…あれよあれよと必要が満たされ、その年の八月末に新会堂での礼拝を開始した。一九九八年四月、当時、東京神学大学学生だった藍田先生は家族と共に会堂の二階に転居し、その管理を任されたとのこと。

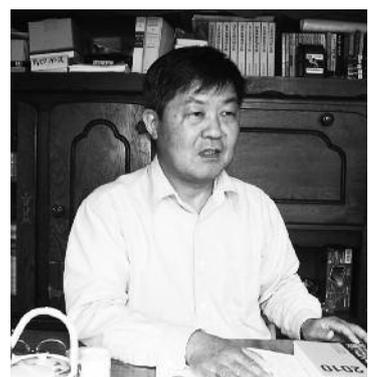
### †《藍田牧師のこと―召命》

藍田牧師は、ご自身について以下の事を話された。

サラリーマン時代、横浜に在住していた若い頃、通勤コースの途中に、トレーラーハウスを利用した「羽沢伝道所」があった。なんとなく浮世離れしているような雰囲気を感じながら、毎日そこを横目で見ながら通っていたが、ある時、思い切って礼拝に出席してみた。その二年後、洗礼を受け、そのオルガンリストであった牧師の娘・菜穂子と結婚した(菜穂子さん二〇〇九年逝去)。

四十九歳の時、召命を受け、妻に相談した結果、協力すると言われ、一大決心をして会社を退職し、その退職金と家売却して一九九七年、東京神学大学三年に編入した。

当初、長男の学校(東松山市)と東神大の中間地点として、所に居を構えた。妻、子ども四人との生活は苦しかったため、大学院には行かず、一九九九年に卒業し、二〇〇二年、按手を受けた。将来の事を考えていた折も折、二〇〇三年に広瀬牧師が急逝されたため、六月、主任担任に就任し現在に至っている。



### †《現況について》

\*現任陪餐会員 十一名。  
\*礼拝出席七名。

(そのスポンサーは市川三本松教会百部、聖ヶ丘教会五十部、阿佐ヶ谷教会五十部)を、この地域全戸(六千世帯)に、顔を合わせる事のできる手渡し配布を行っている。ニュータウンは、建築協定によって看板は禁止されているため、積極的に自治会の事や鳩山町の行事にも参加して、地域とのコミュニケーションをとりながら、ここに教会がある事を知ってもらおう努力をしているとのこと。また、CSが弱いと教会が強くなれないという思いから、CSに力を入れており、子供たち対象の「教会案内」が作られていた。最近の悩みは、CSの子どもが少なく、誰も来ない日も配

り続け、毎週礼拝は行っているとのことだった。

伝道所の活動を維持してゆくためには、経済的基盤が弱い、ナルドの壺献金で支えられている事に感謝しておられた。また、藍田牧師は、かつて、生活のためにアルバイト(配達センターなど)を続けていたが、アルバイト先で怪我をした事を機に、昨年十一月からアルバイトは休止しているとの事。しかし、そのお陰で、今まで牧会的な時間が少なかったことにあらためて気づき、これから、もつと宣教に専念して行きたいとの熱い思いの中に今いると話された。

トレーラーハウスの伝道所で導かれた信仰、開拓伝道をこの地で始められた故広瀬牧師の遺された伝道への思い、そして「自宅」を奉献された隣人の信仰との出会い、それらのすべてが、鳩山伝道所の根っこにある事を感じた。

こののどかな鳩山の丘に、主を賛美する群れの思いが広くこだましてゆく事を祈りつつ、何処からか鶯の親子の「ホーホケキョ」に続いて「ケキョッケキョ」の鳴き声に見送られながら訪問を終え、帰路についた。(地区通信編集委員)

地区委員会報告

編集後記

●二〇一〇年度第一回委員会

日時 三月二十二日(月)  
会場 埼玉新生教会  
出席 十一名  
陪席 五名

【主な協議事項】

◇地区総会の件

\*総会補助書記(木村勝則教師、金田佐久子教師)の出席のもと、二〇一〇年度地区総会報告の承認と決定事項の確認を行った。(詳細は、地区総会報告を参照)

◇地区委員の役割分担

委員長 土橋誠(飯能)  
副委員長 中村眞(埼玉新生)、書記 栗原清(武蔵豊岡)、会計 佐久間文雄(志木)、補助書記 三井田忠昭(岩槻)、補助会計 東野尚志(聖学院)

「委員会・部会担当」  
・伝道 山ノ下恭二(東大宮)、栗原清、佐久間文雄  
・教育 長尾愛子(小川)  
・社会 土橋誠  
・教師 都築英夫

・地区通信 三井田忠昭、中村眞  
・ホームページ 中村眞  
・修養会 都築英夫、東野尚志  
・災害対応 山ノ下恭二  
・壮年部 佐久間文雄  
・婦人部 結城恭子(大宮)

・青年部 栗原清  
・障教懇 長尾愛子  
・教会音楽 長尾愛子  
・桶川支える会 山田祢子(浦和別所)  
・埼玉宗連・同宗連 三羽善次  
「和戸・委嘱」  
・川越少年刑務所教誨  
・山岡創「坂戸いずみ・委嘱」  
・カルト問題  
・白石多美出「春日部・委嘱」

●二〇一〇年度第二回委員会

日時 五月十一日(火)  
会場 埼玉新生教会  
出席 十一名

【主な報告・協議事項】

◇委員長報告  
\*教会・教師の動静について  
・教師の辞任・就任について  
「隠退」 山岡磐教師(初雁)  
「辞任」 永本慶子(西川口)、中村眞教師(埼玉大通り代務)、  
「就任」 浅田美由紀教師(浦和別所)、東海林昭雄教師(埼玉大通り)  
・教会関係  
浦和東教会  
(創立五十周年記念、)  
上尾使徒教会  
(創立四十周年記念、)

◇その他の件

◇次回委員会日程と会場を決定。  
◇その他の件

◇地区総会からの付託事項  
・地区会計監査選任  
地区委員会四役に一任する。  
総会議事録承認した。次回より総会議事録に、前年度総会議事録を添付する。  
次回地区総会会場及び日程の件、会場は継続審議、日程二〇一一年三月二十一日(月)

◇地区総会からの付託事項  
・「地区分担金」の早期納入をお願いする。  
◇各委員会・各部報告  
・三羽善次牧師(和戸)、渡邊誠子(埼玉新生) 姉を推薦し、教区の要請に応じて、土橋委員長を加え、派遣を三人とす

◇地区伝道援助金申請の件  
・深谷西島教会(五万円支出)  
◇教区韓国京畿中部老会訪問の件  
・三羽善次牧師(和戸)、渡邊誠子(埼玉新生) 姉を推薦し、教区の要請に応じて、土橋委員長を加え、派遣を三人とす

◇地区委嘱状の件  
・従来の委嘱状の形式ではなく、地区月報に記載される  
二〇一〇年度埼玉地区各委員会各部組織表(別紙)に挨拶文を添付し各教会・伝道所宛てに送付する事をもって委嘱状に代える。  
(書記・栗原 清)

シャロンのばら教会  
(第二種教会設立)、  
北川辺伝道所  
(所在地表記変更)  
加須市飯積一〇六一二  
・就任式  
浅田美由紀担任教師(浦和別所教会) 五月十六日  
東海林昭雄担任教師(埼玉大通り) 五月三十日  
\*四月二十日~二十五日の委員長活動を報告。  
\*教区関係事項の報告。  
◇副委員長報告  
・東海林昭雄教師就任式出席。  
◇書記・補助書記報告  
・竹内紹一郎前地区書記と引き継ぎを行った。  
◇会計報告  
・三羽四月の会計報告。  
・「地区分担金」の早期納入をお願いする。  
◇各委員会・各部報告  
・三羽善次牧師(和戸)、渡邊誠子(埼玉新生) 姉を推薦し、教区の要請に応じて、土橋委員長を加え、派遣を三人とす

◇新年合同礼拝の件  
・二〇一一年一月十日(月)  
・最寄り区毎の開催。開催は教師委員会に委ねる。  
◇地区主催集會開催の件  
・災害対応について学ぶ会、聖餐について対話をする会(仮称)は継続審議  
◇地区委員会開催日の件  
・第三回七月十三日(火)午後五時 会場:浦和別所教会  
◇地区総合協議会の件  
継続審議  
◇教区総会設営委員会の件  
教区総会設営委員会に委託する。  
◇地区伝道援助金申請の件  
・深谷西島教会(五万円支出)  
◇教区韓国京畿中部老会訪問の件  
・三羽善次牧師(和戸)、渡邊誠子(埼玉新生) 姉を推薦し、教区の要請に応じて、土橋委員長を加え、派遣を三人とす

地区総会を終了し新地区委員長に土橋誠牧師が選出されました。総会の模様を豊川昭夫さん(越谷)に報告頂き、また総会の結果を踏まえて、委員長の挨拶を頂きました。  
解決しなければならぬ課題が多い中、主のみ旨を探りながら地区のために労している委員の皆様を、皆で支えていきたいと思えます。  
シャロンのばら教会の設立の喜びを鈴木証一牧師に伝えていただきました。おめでとございます。  
来年度開催される地区修養会の準備が既に始まっており、節目の四十周年を、参加教会が一番多い修養会にしようという張り切っております。この修養会が各教会の教会行事として位置づけられますよう願っています。  
特集は昨年度に引き続き、教会訪問記を連載します。今回は鳩山伝道所(藍田修牧師)です。思いもかけない助けがあった会堂が与えられ、また牧師と信徒で、三羽四年かけて鳩山町全戸に「こころの友」を配布し続けていたお話を伺いました。  
(三井田)